

令和6年度  
杉並区次世代育成基金活用事業

# 広島平和学習 中学生派遣事業

報告書



Hiroshima  
—そこに立ち、何を考える—



## Hiroshima —ここから行動をはじめ—

### 目次

|                 |    |
|-----------------|----|
| はじめに            | 1  |
| 事業概要            | 2  |
| 派遣行程表           | 3  |
| 事前学習会           | 4  |
| 広島派遣            | 6  |
| 事後学習会・成果報告会     | 9  |
| 発表スライド          | 10 |
| ■ A班 派遣報告       | 11 |
| ■ B班 派遣報告       | 18 |
| ■ C班 派遣報告       | 25 |
| ■ D班 派遣報告       | 32 |
| 元安川を流れた派遣生のとうろう | 39 |
| 私の平和宣言          | 40 |
| 杉並区平和都市宣言       | 41 |



## はじめに

杉並区長

岸本聡子



世界の恒久平和は人類共通の願いです。しかし、ウクライナやパレスチナのガザ地区など、各地で戦火が止むことはなく、多くの人が戦争やテロリズムの犠牲になるつらく悲しい状況が続いています。

杉並区では、次代を担う中学生を被爆地広島に派遣し、平和記念資料館の見学や平和記念式典への参列等を通して平和について学ぶ「広島平和学習派遣事業」を3年前から実施しております。

今回、私も初めて派遣生に同行し、現地での被爆体験講話や戦争関連資料を通して、戦争という争いが多くの尊い生命を理不尽に奪うものであることを改めて認識し、二度と戦争は起こしてはならないと強く決意しました。

派遣生は、事業を通して、過去の戦争や被爆の実相に真剣に向き合い、世界で起きている紛争を自分ごととして捉えようとしていました。平和に向けて自らができることを考え、決意新たに取り組む中学生の姿を見て、核兵器のない平和な未来の実現に向けた可能性を大きく感じました。

人類の豊かな未来は、平和や民主主義があってこそ可能になるものです。世界平和について、市民一人ひとりが主権者として考えて行動に移すこと、そしてその取組を市民間で連帯し次世代につなげることが大切であり、私もその取組を一層進めてまいります。

本報告書をお読みいただいた皆様も、これを機に、家族や親しい人たちと、改めて平和について考え、話し合うなど、身の回りの小さなことから、平和のためにできることを実践していただきたいと思います。

結びに、本事業の実施に当たり、ご協力をいただいた方々、杉並区次世代育成基金を通じて本事業を支えていただいた皆様に心から感謝申し上げます。

令和6(2024)年12月



# 事業概要

## 目的

次世代を担う中学生が、広島を訪れ被爆の実相にふれるとともに、現地の中・高校生等との交流を通し「平和」の大切さを学び伝える。

## スケジュール

| 区分        | 日時                    | 内容  |
|-----------|-----------------------|---|
| 第1回 事前学習会 | 7月 1日(月) 午後5時～午後7時30分 | ・自己紹介<br>・講義 (講師：第五福竜丸展示館 学芸員 市田 真理氏)<br>・グループ学習  |
| 第2回 事前学習会 | 7月25日(木) 午前9時～午後3時    | ・被爆の概要説明 (講師：広島市被爆体験伝承者 植原 泰一氏)<br>・被爆者との交流 (杉並光友会ほか)<br>・未来型平和学習 (講師：世界のヒバクシャと出会うユースセッション 高垣 慶太氏)<br>・グループ学習 |
| 広島派遣      | 8月 5日(月)～7日(水) 2泊3日   |   |
| 事後学習会     | 8月21日(水) 午前9時～午後3時    | ・成果報告会リハーサル   |
| 成果報告会     | 8月31日(土) 午後2時～午後4時    | ・グループ発表<br>・教育長、杉並光友会、派遣生によるトークセッション<br>・私の平和宣言   |

## 派遣生 (区内在住の中学2・3年生24名)

| 氏名    | 学年 | 学校名     | 氏名      | 学年 | 学校名     | 氏名     | 学年 | 学校名        |
|-------|----|---------|---------|----|---------|--------|----|------------|
| 瀧中 一乃 | 2  | 高南中学校   | 西村 然太郎  | 2  | 井荻中学校   | 小林 花   | 3  | 松ノ木中学校     |
| 太田 奈央 | 2  | 杉森中学校   | 仲宗根 あおい | 3  | 井草中学校   | 荻野 叶羽  | 2  | 大宮中学校      |
| 木村 穂佳 | 3  | 阿佐ヶ谷中学校 | 波戸場 心   | 2  | 荻窪中学校   | 池田 瑚子  | 3  | 泉南中学校      |
| 石井 夏波 | 3  | 東田中学校   | 井上 小蘭   | 3  | 神明中学校   | 齊藤 禅   | 2  | 和田中学校      |
| 岡本 穂南 | 2  | 松溪中学校   | 本山 聡也   | 3  | 宮前中学校   | 大和 怜央  | 2  | 西宮中学校      |
| 矢萩 凜々 | 2  | 天沼中学校   | 森 大城    | 2  | 富士見丘中学校 | 渡辺 颯   | 8* | 杉並和泉学園     |
| 平川 真那 | 2  | 東原中学校   | 南出 弘宣   | 2  | 高井戸中学校  | 室崎 郁乃  | 9* | 高円寺学園      |
| 小松 咲弥 | 2  | 中瀬中学校   | 武井 佳泰   | 2  | 向陽中学校   | 寺澤 百合美 | 3  | 光塩女子学院 中等科 |

※ 小中一貫教育校の学年

## 引率及び同行者 (9名)

| 氏名    | 所属         | 氏名     | 所属                | 氏名    | 所属              |
|-------|------------|--------|-------------------|-------|-----------------|
| 岸本 聡子 | 区長         | 野澤 巡   | 総務部 秘書課長          | 望月 利宣 | 富士見丘中学校 主任教諭    |
| 三輪 巧介 | 高円寺学園 主幹教諭 | 細川 隆弘  | 済美教育センター 指導主事     | 都木 求枝 | 学校支援課 指導主事      |
| 阿出川 潔 | 区民生活部管理課長  | 小川 登志広 | 区民生活部管理課 平和事業担当係長 | 小川 綾子 | 区民生活部管理課 平和事業担当 |



# 派遣行程表

## 派遣行程表 令和6年8月5日(月)～7日(水) 2泊3日

| 日程    | 時間          | 行程                        | 内容等                                    |
|-------|-------------|---------------------------|--|
| 8/5 月 | 7:10        | 杉並区役所集合・出発式               |  |
|       | 8:42        | 東京駅発(新幹線のぞみ311号及び63号)     | 車内でとうろうの色紙を作成                          |
|       | —           | 昼食(車内)                    |  |
|       | 12:42       | 広島駅着                      |  |
|       | 13:10～15:10 | 「広島平和記念資料館」見学             | イヤホンガイド解説付                             |
|       | 15:15～16:30 | 「平和記念公園」碑巡り               | ボランティアガイドによる解説付                        |
|       | 17:00       | 夕食(むさし土橋店)                | 夕食後、グループ学習・区長との対話                      |
|       | 19:00       | ホテル着・1日の記録を記入             |  |
| 22:00 | 就寝          |                           |  |
| 8/6 火 | 6:30        | 朝食                        |  |
|       | 8:00～ 8:50  | 「平和記念式典」参列                |  |
|       | 9:30～10:10  | 「本川小学校平和資料館」見学            |  |
|       | 11:00       | 昼食(呉ハイカラ食堂)               |  |
|       | 12:10～14:00 | 「呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)」見学   | 施設職員による大和講座付                           |
|       | 14:00～15:00 | 呉市内巡り                     | ボランティアガイドによる解説付                        |
|       | 15:45       | お土産購入(広島駅)                |  |
|       | 16:30       | ホテル着・1日の記録を記入             |  |
|       | 17:30       | 夕食(ホテル)                   | 夕食後、グループ学習                             |
|       | 19:15～20:00 | とうろう流し見学                  |  |
| 22:00 | 就寝          |                           |  |
| 8/7 水 | 7:00        | 朝食                        |  |
|       | 9:00～12:15  | 「ヒロシマ青少年平和の集い」参加(広島国際会議場) | ・原爆被害の概要説明<br>・被爆体験証言<br>・グループディスカッション |
|       | 13:18       | 広島駅発(新幹線のぞみ28号)           |  |
|       | —           | 昼食(車内)                    |  |
|       | 17:15       | 東京駅着                      |  |
| 19:15 | 杉並区役所着・解散式  |                           |  |



# 事前学習会 1

■日時：7月1日(日) 午後5時～午後7時30分  
 ■場所：杉並区役所 第5・6会議室

学習会冒頭、区長からの応援メッセージを受け、区の代表として決意を新たに派遣生。  
 その後、自己紹介や班ごとのアイスブレイクで緊張をほぐし、第五福丸丸展示館学芸員の市田さんから「ビキニ事件と杉並区の原水爆禁止署名運動\*」の歴史について講義を受けました。  
 後半は、24人が4班に分かれてのグループ学習。「あなたが思う平和とは」、「その平和のために私たちができることは」について、ディスカッションを行いました。

\*杉並区の原水爆禁止署名運動の歴史は、こちらからご覧いただけます！



区長から派遣生への応援メッセージ



一人ずつ参加への意気込み、自己PRを発表

## 派遣生 voice 荻野 (A班)

終戦後でも核実験の問題がなくなっていなかったことを知り、驚きました。今日の学習を通して、平和について全員が意識し考え、互いを認め合うことが平和につながると思いました。



アイスブレイクに「すごろくトーク」で共通点探し



ビキニ事件について理解を深めました

「平和のために私たちができることは」



班ごとに議論。色々な意見ができました。

## 派遣生 voice 小林 (B班)

色々な人の話を聞き、新たな発見や違いに気づきました。被爆した広島の人たちはどんなことを望み、どんなことを願ったのか。現地に行って実感して、学びたいと思いました。



# 事前学習会 2

■日時：7月25日(日) 午前9時～午後3時  
 ■場所：杉並区役所 第5・6会議室

## 被爆の概要説明・被爆者との交流

まずは、広島市被爆体験伝承者の榎原さんから、被爆の概要を学びました。  
 その後、杉並光友会(区内に住む原爆被爆者の会)の協力のもと、4名の被爆者の方においでいただき、車座になって対話。ご自身の体験談、平和への思いや中学生に願うことなどを伺いました。



山田玲子さん

(派遣生)  
 私たちのような若い世代にしてほしいことはありますか。



西尾睦子さん

(被爆者)  
 戦争は絶対にしないで、平和に過ごしてほしいです。



久保田朋子さん



杉野信子さん

## 未来型平和学習

講師は「世界のヒバクシャと出会うユースセッション」の高垣さん。第五福丸丸が被爆したビキニ事件が起きたマーシャル諸島やカザフスタンへの訪問など、グローバルに活動続ける同世代の方から「平和のために私ができること」をテーマに講義を受けました。



## グループ学習

1回目の事前学習会で出た意見を基に、班ごとに学習テーマを考えました。8月31日の成果報告会に向け、その内容・目的・役割分担等をみんなで話し合いました。



## 派遣生 voice 齊藤 (D班)

被爆者の方の「アメリカを恨んでいるのではなく、核兵器を恨んでいる」という言葉が深く心にささり、戦争は絶対にしてはいけないと改めて思いました。



## 派遣生 voice 井上 (C班)

今までに日本以外にも何回も核兵器が使用され、困っている人が大勢いることを知りました。私は、広島に行って事実をしっかりと知った上で、国際的に視点を広げていきたいです。



# 1st day 8月5日(月) 東京→広島

START 07:10~  
杉並区役所発   
08:42  
東京駅発 

12:42  
広島駅着 

13:10~15:10  
平和記念資料館



移動↑

15:15~16:30  
平和記念公園

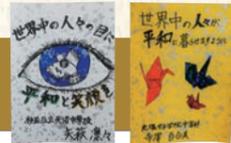




17:00~18:50  
むさし土橋店



19:00  
ホテル到着 



(派遣生の「とうろう」は、P39に掲載)

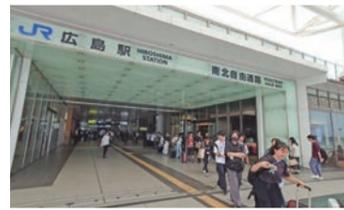
## ■区役所で出発式～広島到着



出発式での代表生徒あいさつ



新幹線車内でとうろうの色紙を作成



広島駅到着

## ■平和記念資料館見学

被爆者の遺品や原爆被害の写真などを展示した資料館です。数多くの資料から、原爆の非人道性、原爆被害の甚大さや悲惨さ、被爆者遺族の苦しみや悲しみなど、被爆の実相を学びました。



## ■平和記念公園碑巡り

広島市の中心部にある公園。原爆ドームや平和記念資料館のほか、平和を祈念した数々のモニュメントがあります。派遣生は、かつて広島を中心とした繁華街であったこの地が原爆によって破壊され、公園として生まれ変わったことを実感しながら、碑に込められた平和への思いを巡りました。



広島市観光ボランティアガイドによる説明

### 派遣生 voice 渡辺 (A班)

平和記念公園には、様々な想いが詰まった記念碑が60個ほどありました。「知る」ということが平和への第一歩だと思います。ぜひ皆さんも現地に訪れ、記念碑に込められた想いを知り、平和を祈ってほしいと思いました。



## ■夕食、グループ学習

夕食に広島名物  
お好み焼きを食べて  
パワーチャージ!



区長と「平和」についてディスカッション

## ■ホテル到着

(ホテルマイステイズ広島 平和公園前)

# 2nd day 8月6日(火) 広島滞在

START 07:30~  
ホテル発↑  
08:00~08:50  
平和記念式典



入場用リストバンド

09:30~10:10  
本川小学校平和資料館

呉市へ移動  
(約50分) 

12:10~14:00  
呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

14:00~15:00  
呉市内

広島市へ戻る  
(約50分) 

## ■平和記念式典参列

原爆投下から79回目の「原爆の日」を迎えた6日、平和記念公園で平和記念式典が開かれました。厳粛な雰囲気の中、広島市長の平和宣言やこども代表による平和への誓いに真剣に耳を傾けていました。



## ■本川小学校平和資料館見学

爆心地から最も近い小学校(旧名 本川国民学校)であり、校舎の一部と地下室が資料館として整備・保存されています。被爆による焼け跡が今なお残る被爆建物や、奇跡的に生存した児童(約400名のうち1名のみ生存)の証言資料など熱心に見学しました。



## ■呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)見学

海軍工廠(海軍が管理する工場・研究所)が置かれ発展した呉の歴史とともに、呉で建造された戦艦「大和」の沈没や空襲を受けた戦時下の市民生活など、実物資料を通じて、戦争がもたらす悲劇を学びました。



10分の1戦艦「大和」



グループで見学



施設職員による大和講座

### 派遣生 voice 本山 (A班)

明治時代から復興までの歴史を展示した大和ミュージアムにも訪れたため、呉市を歩いているだけで知識と匂が結びつき、より実感をもって戦時中や戦後の情景を思い浮かべることができました。



「この世界の片隅に」の舞台にもなっている呉市



## 2nd day 8月6日(火)

16:30  
ホテル到着

■夕食、グループ学習(ホテル内)  
1日目、2日目ともに夕食後の時間も使ってグループ学習を行い、理解を深めました。



19:15↑  
元安川へ移動

■とうろう流し見学  
広島のとうろう流しは、家族を原爆で失った遺族の方々が供養のために、手作りのとうろうを川に流したのが始まりとされています。派遣生が平和への思いを記したとうろうも元安川に流されました。



(派遣生の「とうろう」は、P39に掲載)

## 3rd day 8月7日(水) 広島→東京

START 08:40~  
ホテル発  
09:00~12:15  
ヒロシマ青少年  
平和の集い

■ヒロシマ青少年平和の集い参加  
広島市の中・高校生ピースクラブが主催する事業に参加。  
原爆被害の概要、被爆体験証言を聞き、約80名の同世代の参加者と平和をテーマに議論し合いました。

派遣生 voice 矢萩 (B班)

八幡さんの言葉で一番心に残っているのは「世界を知ること、学ぶこと」。噂や憶測で物事を決めつけるのではなく、自分の目で見るからこそ、本当のことが分かるのだと…私の目をしっかりと見て、伝えてくれました。



全国から5自治体に参加。同世代が集まりました  
被爆者の八幡照子さんに質問する杉並の派遣生  
今年度のディスカッションテーマは「核兵器をなくすために、自分たちは何ができますか」等



12:45  
広島駅着

13:18  
広島駅発  
17:15  
東京到着  
19:15  
杉並区役所着

■帰途  
広島を訪れ、原爆や戦争の恐ろしさを改めて知り、平和を願う「ヒロシマの心」を感じた派遣生。3日間の行程を無事に終え、一路東京へ。

派遣生 voice 室崎 (D班)

この3日間で直接見て、聞いて、感じて、戦争の悲惨さにおいて、多くのものを得ました。1945年8月6日に起きたことや今の私たちの環境がどれだけ平和で、ありがたいものかを感じたため、それらを伝えていきたいです。

■区役所で解散式

## 事後学習会

■日時：8月21日(火) 午前9時~午後3時  
■場所：杉並区役所 第5-6会議室

広島派遣から約2週間後、事後学習会を開催。各自が作成した資料を班ごとにまとめ、成果報告会のリハーサルを行いました。



## 成果報告会

■日時：8月31日(土) 午後2時~午後4時  
■場所：座・高円寺2

派遣生は班ごとに、広島で体感したこと、ともに学んだことを自分たちの言葉で報告。その後のトークセッションでは、教育長と派遣生が互いに質問し合い、杉並光友会(原爆被爆者の会)からは派遣生へのエールが送られ、会場全体で平和を考える有意義な時間となりました。

最後に、平和のために自分たちができるアクション「私の平和宣言」を発表し、これからも行動し続けることを宣言しました。(派遣生の「私の平和宣言」は、P12以降の個人ページに掲載)



班ごとの成果報告  
トークセッション  
私の平和宣言



来場者 voice

24人がそれぞれの切り口で広島を感じていて、大変興味深かったです。  
未来を担う子どもたちのまっすぐにささる言葉がとても新鮮で、私も何かしなければと思われました。

伝える活動

派遣生は、所属の学校でも報告を行っています。  
一人でも多くの人に自らの体験を伝える活動を実践しています。



# 発表スライド

派遣生が成果報告会で発表したスライドの一部です。  
班ごとに学習テーマを決め、1人2枚ずつのスライドをPowerPointで作成し、発表を行いました。

# Group A



被爆者の想いや願いを伝え、  
二度と戦争が起こらない平和な日々をつないでいきたい



## 学習テーマ

### 祈念

みんなが戦争について学び、伝え、つないでいくことで  
幸せを築いていけるのではないのでしょうか。  
そして、平和につながるのではないのでしょうか。  
皆さんも、まずは戦争について知ることから始め  
平和への考えを深めてもらいたいと思います。



### A班

祈念

石井夏菜 石野村 渡辺 山本 坂本 中澤 白鳥 平川 美穂

被爆者、その家族

同じ過ちを繰り返さないでほしい  
「歴史を忘れないでほしい」

現代の人の平和とは

心からの笑顔  
ご飯が食べられる  
安心して暮らせる  
安否確認が  
必要ないこと  
家族や友人と過ごすこと

時計の針を逆回転させて見えたこと

外国人の思い

戦争のあとが今も残る街、呉市

自衛隊駐屯地社会福祉施設

外国人の歴史を繰り返さないために

1) 天啓機が正しい  
→ 戦艦大和を撃つことで戦艦大和を撃つことができた  
→ 戦艦大和を撃つことができた  
2) 天啓機が正しい  
→ 戦艦大和を撃つことで戦艦大和を撃つことができた  
→ 戦艦大和を撃つことができた

戦争をすることで  
得るもの

戦争をなくすには

学校の授業で戦争について学ぶ  
現地へ行き、学ぶ

No war  
Wishing for  
a peaceful world

### B班

『対話で創る』  
～笑顔あって成る平和～

O班  
坂井 心一 西村 大太郎  
坂井 心一 西村 大太郎  
坂井 心一 西村 大太郎

伝言ゲーム

核兵器を恨んでいる  
核兵器は絶対に  
存在してはいけない

伝えたいこと

復興によって取り戻したものの  
→ 笑顔

「対話」「つくる」

敵対国に「対話する」  
田中道子、ゴッホ、元大統領、平和は必要であり、  
核兵器の根絶を表明した。  
核兵器をなくすためには、保有国同士が  
「対話」を重ね、平和について真剣に考え合う

私たちが核兵器根絶のためにできること

核兵器根絶は未来の  
平和のために**必要不可欠**  
そのために私たちにできることを  
積み重ねていくことが大切

自分たちが出来ること

1 見て、聞いて、感じて、  
得られたものを学校などの発表  
2 同年代との戦争や平和について  
意見交換と問題提起  
→ 知るための行動を起こす・起こさせる

世界の平和を考える会議

①若い人  
→ 未来を作っていくという自覚を高め、  
自分の考えを話す  
②資料館へ  
→ 歴史上だけのことではないことを  
認識、身近に考える

### C班

「私たちが伝える」  
～過ちを繰り返さないために～

C班  
伊藤 大城  
岡本 瑞希  
小坂 悠希  
長谷 幸希

呉市（戦中・戦後）

戦争の先には必ず  
悲劇がある！  
戦争を教訓の場と  
ならないで！

様々な人からの話を聞いて

平和のシンボル

アメリカと広島

アメリカはなぜ広島に原爆を落とされたのか  
①遠征マール(約4,800)以上の市街地を持つ都市  
だったから  
②空襲を一度も受けていなかったから  
③連合軍の補給収容所が無いとされていたから

広島平和記念式典に実際に参加  
して聞き、感じたこと

「願うだけは、  
平和はおとずれません」  
平和への貢献の仕方は人それぞれ

### D班

「私たちが伝える」  
～過ちを繰り返さないために～

C班  
伊藤 大城  
岡本 瑞希  
小坂 悠希  
長谷 幸希

呉市（戦中・戦後）

戦争の先には必ず  
悲劇がある！  
戦争を教訓の場と  
ならないで！

様々な人からの話を聞いて

平和のシンボル

アメリカと広島

アメリカはなぜ広島に原爆を落とされたのか  
①遠征マール(約4,800)以上の市街地を持つ都市  
だったから  
②空襲を一度も受けていなかったから  
③連合軍の補給収容所が無いとされていたから

広島平和記念式典に実際に参加  
して聞き、感じたこと

「願うだけは、  
平和はおとずれません」  
平和への貢献の仕方は人それぞれ

10 令和6年度 広島平和学習中学生派遣事業報告書

令和6年度 広島平和学習中学生派遣事業報告書 11

## 1 学習テーマ 祈念

私がこのテーマを学ぶ上で最も知るべきなのは、当時の人の想いや考えだと思います。人は何もなしに突然祈ることはしません。何か気持ちの変化があったから祈り、願うのだと思います。

原爆は、多くの尊い命を一瞬にして奪っていきました。無惨な姿で次々と亡くなっていく人を見て「死にたくない」と願って亡くなった人もいます。私たちは被爆者のお話を直接聞き、当時の人がどんな経験をしたのか、どんな苦悩があったのかを肌で感じることができました。

現在、原爆が落とされてから79年という年月が経過しました。被爆者の方の高齢化が進み、伝える活動がされている方は年々減少しています。無惨にも時は戻りません。後継していく人がいなくなれば、当時の惨状は、当然のように忘れ去られていきます。被爆者の方が日本にいて、それを聞けるということは簡単なことではありません。実際に広島に行った3日間を通して、前に進んでいくためには、現状を知ることが鍵だと学びました。私もこの貴重な経験をもとに、後世に語り継いでいきたいと思っています。それが平和な日本を創っていく道標になれば嬉しいです。

## 2 感じたこと、学んだこと 忘れちゃいけない、忘れられない

私は、この3日間でどうしても忘れられないことがあります。それは、平和記念資料館で見た「死の斑点が出た兵士」の写真です。この写真を初めて見たとき、今までの自分は知った気になっていただけで本当の原爆の卑劣さを認知できていなかったのだなと実感しました。当時の自分は原爆に対する漠然とした嫌悪感しかなかったものの、この写真を含め、多くの資料に目を通す中で、明確な憎悪に変化しました。

私は平和記念資料館で見た数々の資料を忘れることはないと思います。それは、まるでその1つ1つの資料が「忘れないで」と私に訴えかけるように脳裏に焼き付くからです。そして自分自身にも「語り継がなくては」という意識が芽生えたからです。物は喋らないけど、無念にも亡くなっていった方々の想いを乗せ、今、私たちがこうしている間も訴え続けているのだなと感じました。



「死の斑点が出た兵士」の写真



## 私の平和宣言

## 平和ではないこの世界に終止符を

浅はかな考えかもしれないけど、私はこの派遣事業を通してやっぱり平和が一番だなと感じました。そしてこの考えは、世界共通なのだろうとも思います。それでも、平和が訪れない国もあるというのが世界の現状です。

みんなが平和に向けて少しでも優しくなれたなら、きっといつか平和ではないこの世界に終止符が打たれるのではないかと思います。その実現に向けて、微々たる力ですが、人の心を動かせるようになりたいと思いました。

## 1 学習テーマ 祈念

まず「祈念」とは強く念じ、祈ることを意味する言葉です。私たちは被爆された方々のお話を聞く中で「若い人たちに同じ思いをしてほしくない」という言葉をよく耳にしました。また平和記念公園には戦争で辛い思いをされた方々を「忘れてほしくない」という多くの方の思いから今もなお「原爆ドーム」「原爆死没者慰霊碑」「原爆の子の像」が残されています。



原爆の子の像

このことから被爆された方々だからこそ二度と同じ過ちを犯してはいけないという私たちの学習テーマでもある「祈念」のような気持ちがたくさん伝わってきました。

## 2 感じたこと、学んだこと 「戦争の辛さ」「平和であることの大切さ」「伝え続けていく必要性」

私は広島平和学習中学生派遣事業を通して戦争の恐ろしさや辛さ、平和であることの大切さ、そして伝え続けていくことの必要性など多くのことを実際に見たことで得ることができました。特に平和記念資料館、本川小学校が印象に残っています。

平和記念資料館では、原爆によってつぶされてしまっているガラス瓶を見て、実際に触ったことで、人は想像以上の被害を受けたのだと改めて感じ、印象的でした。

本川小学校では、壁や床がデコボコしていて転んでしまいそうでした。当時、中にいた方が安全なところに行くのはどんなに大変だったのだろう。どうしてこんな辛いことが起きてしまったのだろう。当時、被害を受けた建物内に入り見たからこそ、多くのことを考えさせられました。

戦争は一瞬にして多くの人の尊い命を奪ってしまうだけでなく、戦争後も続く頭髪が抜けてしまったり、斑点が出てしまったりという後遺症が残り、辛い思いをする方がいたり、大切な人を失ってしまった遺族の方々など多くの方が戦争により辛い思いをされています。戦争のない平和な世界でないとなかなか多くの方がまた同じような辛い思いを繰り返してしまうのです。だからこそ、これから私たちは「戦争の辛さ」「平和であることの大切さ」などを多くの方に伝えていくと共に、今ある生活のありがたさを伝えることが必要だと改めて思いました。

私はこの平和学習を通して「戦争の辛さ」「平和であることの大切さ」「伝え続けていく必要性」など様々なことを学ぶことができました。

## 私の平和宣言

## 日々の笑顔に感謝

いつものように「行ってきます。」と言い、それが最後に交わした言葉になってしまったことを私は平和記念資料館で知りました。この事実を知り、当たり前だと思ってしまっている日々は当たり前ではない。だからこそ日々笑顔で過ごしていることに感謝したいと改めて思いました。



## 1 学習テーマ 祈念

祈念とは様々な意味があり、班員によってもその捉え方は多少の差があると思いますが、一つに、「平和を願う」を一言にして祈念と使う時があります。

広島市はまさに原子爆弾投下による直接的な被害を受けて復興した、長崎と並んで世界に2つだけの平和を象徴するような都市です。しかし現在復興している2つの都市も、当然原爆を落とされた直後はとてもこの世のものとは思えないほどの地獄絵図であり、今のような綺麗な街並みが整うまでには、数えきれない程の人々の努力がありました。自分が辛くても、他の人を助けるために一心不乱に動き続ける人を見て、私はそこで平和を切実に求める人の心の尊さに気がつくことができました。しかし、それと同時にこの広島で起こった事実を知らない人が世の中には多く存在するという事に今更ながらとてもショックを受けました。

そこで私は自分が広島で3日の間にインプットしたことを他者へのアウトプットを通して、とにかく多くの人に広島で起こった惨劇と今の平和の尊さを知ってほしいと思いました。そして、下の欄に詳しく書きませんが思っているより広島に対して、平和に対して興味を持っている人は多いことに気付くことができましたので、私には学んだことを余すことなく伝え尽くす責務があります。私は、この広島原爆投下から始まり私たちの学んだ平和の尊さを他者に伝え、終わることなくそれが連鎖し続けることが私の思う「祈念」であると考えました。

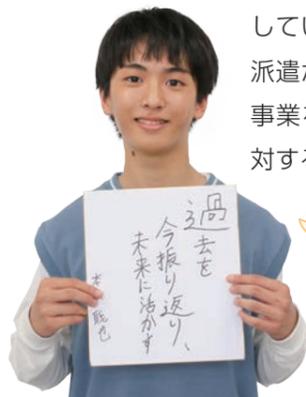


罹災証明を発行する警察官

## 2 感じたこと、学んだこと 身近な存在にする

私は派遣期間中、色々なことを学び、感じて驚きました。しかし広島について、平和について一番驚いたことが派遣学習期間外でありました。それは派遣学習から帰ってそのことを友達や親類に伝えた際、多くの人から「広島はどんな地域だったか」と広島市の街の雰囲気などではなく「どんなことを学べたか」を多く聞かれたことです。私はそこで初めて自分が知らないだけで、広島に興味を持っている人は多くいることに気がつくしました。

そして、なぜ興味があるのに学ばないのかと自分なりに考えた結果、派遣学習のように広島まで行って深く学ぶには金銭的な面以外にも自分から行動することのハードルの高さにより敬遠しているという結論に至りました。そう考えた時に、どれほどこの杉並区広島平和学習派遣が有意義で人々の需要に応えているのかと感激しました。なので、私はこのような事業をさらに活性化させることで、より広く早く平和について深く自分なりの平和に対する意見を持つ人が増え、広島のような惨劇を未然に防ぐことができると思いました。



## 私の平和宣言 過去を今振り返り、未来に活かす

過去の過ちを今正し、未来に活かすことが平和への近道だと思います。その逆は一寸先は闇です。

## 1 学習テーマ 祈念

平和記念資料館で見た資料からインターネットや本では得られない、現地では得られない戦争の悲惨さを感じました。被爆者の話を聞き、資料館で被爆者の経験を見た中で、周囲で自分だけが生き残ってしまった悲しみや言葉にすることさえつらいような苦しみが伝わってきて改めて心が痛めつけられました。

また、平和記念式典にてこども代表の平和への誓いを聞き、被爆者をはじめとした人々の「平和」への思いが確かに紡がれていると感じました。その誓いの言葉にもあったように僕も相手の考えを尊重し、協力することで平和に一歩踏み出せると思いました。この学習テーマから広島で学んだ様々な人々の祈りを伝えていくことが平和への一歩になると考えました。

## 2 感じたこと、学んだこと 伝え、つなぐ

僕は、この事業を通して、原爆や広島、戦争のことを伝えてつなぐことが大事だと改めて感じました。なぜなら、戦争は伝えなくてはならない出来事で、伝えていかなければ戦時中の人、特に被爆者の人たちの思いを紡ぐことができないからです。

派遣事業での3日間で僕は、施設の資料やガイドさん、被爆者の方から戦争の悲惨さや人々の思いを学びました。1日目は平和記念資料館、平和記念公園に行きました。そこで特に印象に残ったものは時間が止まっている時計です。例えば時間が止まったような衝撃というものがあるが、それは時間が止まった衝撃だと感じ、原爆の危険性がより伝わってきました。3日目には被爆者の八幡さんの話を聞く機会がありました。八幡さんの家は爆心地から2.5km離れていたが、八幡さんが吹き飛ばされたと聞いて原爆の威力は想像しがたいものだったのだと改めて感じました。

平和への誓いを行ったこども代表の加藤さんの言葉の中に被爆者である曾祖母は当時の様子を語ろうとはしなかったとありました。その出来事は言葉にすることさえつらい記憶だったということを表しています。しかし、伝えなければ思いを紡ぐことができません。

僕の先祖も実際に被爆しています。曾祖父の弟は僕の母に当時のことを伝えました。また、母は大学の論文でこのことをまとめ、僕も論文を見せてもらい詳しく知りました。今、僕は平和について学んでいます。僕も曾祖父の弟や母のように戦争について伝えて多くの人につないでいきたいと思っています。



時が止まった時計

## 私の平和宣言 平和な日常に感謝

僕がこの宣言をした理由は、学習を通して今の平和な日常が戦時中の人や戦地にいる人たちから見て普通ではないと意識できている人が少ないと感じたからです。僕たちは発表などで多くの人に伝えてつなぐことができます。自分でもこの日常に感謝し、同じ意識の人を増やしていきたいという思いからこれを宣言しました。



## 1 学習テーマ 祈念

「皆さんと同じように夢があった、生きたかった」と語っていた被爆者の八幡さん。

この言葉を聞いた時「ああ。今の僕らと同じような日々を過ごしていたのに、突然被爆したんだ。」という言葉が失った。原爆が落とされたとき、被爆者はどのような思いをしていたのだろうか。

実際家族にも会えず一人で力尽きてしまった気持ちがどれほど悲惨な出来事だったのかを理解しきる事は容易ではない。夢も希望も日常でさえ、断絶させられてしまったのだから。

罪のない未来がある人たちの命を奪うことはとても許されないことだ。

「不信を信頼へ」「憎悪を和解へ」「分裂を融和へ」式典でのこの言葉が今も心の中にある。

私たちは今、世界や後世に被爆者の想いや願いをつなげ平和を祈るべきだ。被爆者の願いを伝え、二度と戦争など起こらない平和な日々をつないでいきたい。



皮膚を引き摺りながら歩く人々

## 2 感じたこと、学んだこと 平和への想い

私は、戦争はどこか他人事だと思っていたのだ。情報が溢れかえっている昨今、教科書やネットで得られない物なんてあるのだろうか。

広島はむせ返るような暑さだった。平和記念式典では、当時の人々の思いを馳せた。

日常生活が一変した8月6日。平和記念資料館には、たくさんの想いが詰まっていた。色々な所にあるモニュメント。「残さないと忘れてしまう」とガイドをしてくれた方の言葉に驚いた。どんなに酷い悲しい出来事でも、人は日々の生活で次第に記憶から薄れてしまうというのだ。

今回参加するにあたり、杉並区の戦争の被害を初めて知った。零式艦上戦闘機に使われていたエンジンは、杉並区にあった中島飛行機で作っていたのだ。杉並区の小学生は宮城や長野に集団疎開をしてとてもひもじい思いをしていた。調べたらわかる事なのに、全く知らなかったのだ。こんなに身近にあったのに。

語り手の方々の想い、ネットでは受け取れない気持ちを大切に持ち帰る。今の世代につないでくれた想いを、夏の暑さと共に何度も思い出す。

私は何ができるのか。

つないでもらった命を大切に、色々な事に興味をもち学び伝えていく。

広島のに別れを告げ、自分でもできる事はたくさんあるのではないかと思わせられる3日間だった。

私の  
平和宣言 積極的に行動する

広島平和学習に参加できた事はとても光栄な事でした。

平和を学ぶだけでなく、誰も知り合いがない環境の中での学習や広島の高中生との意見交換など、自分が成長できるきっかけになったのではないかと思います。

今回、戦争の残酷さや平和について深く学びました。得た知識を多くの人に知ってもらい、戦争を繰り返さない。自分が少しでも行動するだけで変わるのではないかと思います。

そのためには様々なことに興味を持ち「なんでも積極的に行動する」事を大切に、平和な毎日を過ごせている事への感謝を忘れず笑って過ごせるような日々になるように努力していきたいです。



## 1 学習テーマ 祈念

強烈な熱線で焼き殺された何の罪もない町の人々。爆風、建物の壁に張り付き、影となった本川小学校の子供たち。何年もたってから放射線による白血病やガンで苦しむ亡くなる人々。

原爆が投下された当時、広島には、生きたかったのに生きることができなかった人がたくさんいた。そのため現在も、亡くなった人々を供養し平和を祈るために平和記念式典やヒロシマ青少年平和の集いなどが行われている。

そのような活動の中で私の心に残ったのはとうろう流しだ。毎年8月6日、元安川に灯籠が流される。2024年の8月6日、私はそこにいた。色とりどりの光は、まるで一人一人の命の輝き、尊さを表しているようだった。

私は日々の生活に感謝し、平和の大切さを未来に伝えたい。



とうろう流し

## 2 感じたこと、学んだこと 一羽から

広島で最も印象に残ったのは平和記念公園の原爆の子の像だ。この像のモデルは、原爆投下後の広島に生まれた佐々木貞子。貞子は12歳の時、白血病になった。病室で回復を祈って千羽鶴を折り続けたものの、亡くなってしまった。

平和記念公園の原爆の子の像の周りには日本中から寄贈された千羽鶴が展示してある。私は一羽一羽の鶴から折った人々の平和への強い思いを感じた。

現在ロシアとウクライナで戦争が続いている。この戦争で核兵器が使われないように私たちができることは何だろう。その一つは世界中の人々に原爆の恐ろしさを伝えることだ。本当の恐怖を伝えるためにはその国の言語で訴えなければいけない。

私は将来、たくさんの国の言語を勉強し、よりたくさんの人に今回被爆者の方から聞いたお話を伝えていきたい。そして核兵器廃絶に向けて努めたい。

私の  
平和宣言 無力から微力へ

私はこの学習を始めたころ、インターネットで初めて「微力だけど無力じゃない」という言葉を知りました。これは高校生平和大使のスローガンです。

その時は「核兵器という世界全体の大きな問題に対して、個人の行動で変えられるものは本当にあるのだろうか」と疑問でしたが、私はヒロシマ青少年平和の集いで、被爆者である語り部、八幡照子さんの話に心を動かされたことで考えが変わりました。

一人一人ができることは小さいですが、行動しなければ何も変わりません。これからは私も、多くの人に原爆の恐ろしさ、平和の大切さを伝えていきたいです。





## 「対話」

それは、被爆地広島で語り継がれてきた  
戦争の悲劇を真に理解している人々が導き出した  
唯一の答えなのではないでしょうか



## 学習テーマ

## 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

戦争をなくすためには2つすることがあります。

1つ目は学校の授業で戦争について学ぶこと、

2つ目は現地に行って学ぶことです。

世界の平和を実現するためには、一人一人が責任をもって  
行動することが大切だと思いました。

No War ! Wishing for a peaceful world.



## 1 学習テーマ 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

私がこのテーマで大事だと思うところは、「ヒロシマから世界へ」というセリフです。最初私達は広島で起こったことを、地域の人々だったり学校の友人たちにどう伝えようかと、ばかり考えていたのですが、事前学習や広島の実地に行って、戦争や原爆の出来事は日本に限った話ではなく、世界全体に影響があることで、今この瞬間に世界のどこかで争いが起こっているということを改めて学び、そして考えることができました。

その上で私達は今、自分達が感じている気持ちや思いを、日本を超え世界にも発信していけないと、この事業に参加した意味がないと感じました。そこから試行錯誤を繰り返し「戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～」というテーマにして発表を頑張りました。このセリフへの私の思いは日本だけではなく、世界の人々にもっと広島や長崎で起こった出来事に興味を持ってもらい、いつの日か地球にいるすべての人が、争いを望まず平和を望む世界になることを願ったセリフです。そのためにもこの事業に参加した私達が先導して一步一步進んでいけたらいいなと思います。

## 2 感じたこと、学んだこと 繋いでいかれる人々の想い

今回、この事業に参加するにあたって、私は平和とは何かを表面的なことではなく現地の人々の想いから考えたいと思っていました。実際に参加してみて似たような目的を持った人たちと過ごして、自ら学ぶことの楽しさだったり、仲間との交流の大切さを身に染みて感じることができました。

また、事前学習会では戦争や原爆のことについて色々なことが学べました。正直、戦争や原爆のことについては結構知っている自信があったけれど、実際にたくさんの方にお話を伺ってみて知らないことだらけで驚きました。

特に私が印象に残っていることは、海外でも核実験が行われ、被害が及んでいるということです。今までは日本が唯一の被爆国だと思っていたから、そのことを知ったときはとても驚きました。その他にも平和記念資料館で見た光景や、間近で見た原爆ドームなどもとても印象に残っています。このように実際にたくさんの方の経験をさせてもらい、私は改めて広島の想いは繋いでいかれているなと感じられました。これからも、この広島への人々の想いが繋がれていくことを強く願います。



原爆によってボロボロになった学生服

私の  
平和宣言 忘れないこと 繋いでいくこと

私が「忘れないこと 繋いでいくこと」にした理由は、現在実際に被爆を体験した被爆者の方々が年々減少している傾向があるということで、被爆の体験を語り継ぐ人が少なくなっていて、いつか体験者の言葉が聞けなくなってしまうのではと思い、戦争や原爆で起こったことを忘れないように「忘れないこと 繋いでいくこと」という平和宣言にしました。



## 1 学習テーマ 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

平和記念資料館で原爆投下の正確な事実を知り、現地の人の想いを感じ、平和について学習するとともに「戦争をなくすには」という面にも触れることができました。

「ヒロシマ青少年平和の集い」での被爆者の八幡照子さんの体験談では、当時の様子をわかりやすく語ってくださった。休憩の時に目の前で、「当時、どんな教育を受けていたのか」と質問をした。すると、彼女は真剣に私の目を見て語ってくださった。当時、学校ではアメリカ人のことを「怪物だ、米国を憎め」と教育していたそうだ。しかしアメリカの方と交流をしたとき、その方々はとても優しくしてくださったそうだ。また、今世界中の紛争が起きていることについては、「自分だったら事実と受ける影響を冷静に話し、事実と意見を分けて話し合う」と語ってくださった。

「世界を知り、学ぶこと」「世界に発信するために英語を学ぶこと」それが今、私たちにできることだ。争いのない平和な世界を作るために、今、私たちにできることをしていきたい。



八幡さんのお話を聞いている様子

## 2 感じたこと、学んだこと 現地へ赴くことの重要性

私が派遣事業に参加し、自分で何度も感じたことは、「現地へ赴くことの重要性」だ。

1日目の平和記念資料館には、私たちのほかに、全国各地の派遣団、海外の方々、小さい子供から高齢の方までいろんな世代・地域の方々が来館していた。展示してあった「人影の石」をみて、外国からきた女性は、一緒に来ていた男性におかい、眉間にしわを寄せながら言っていた。「Oh my god! I can't believe this happened! (なんてこと！こんなことがあったなんて信じられない!)」。私も実際に展示してあった多くのものを見て、感じて、体の底からくる、教科書の文章・写真・動画で見るとは全然違う、恐怖とともに、実際に起こったというのを肌で感じたような、複雑な感情がこみ上げてきた。

また、平和記念式典での小学生の言葉を生で聞き、とうろう流しでは多くの人の想いが川に流れているのを見て、広島の人々の想いに、今や日本中、世界中の想いも重なったのだと分かった。戦争の恐ろしさも、広島の人々の想いも学んでいる気になっていたが、現地へ行き、広島の前爆投下についての正確な事実と、広島の方の想いを深く知り、現地へ赴くことの意味や重要性、現地だからこそ得られるものがよく感じられた。

私の  
平和宣言

見て、聴いて、感じて、自分の言葉で伝える

時代・国・人により、戦争への向き合い方、平和への考え方が違い、だからこそ争いがおこるといふ事実があります。それでも実際に見て、聴いて、感じて、自分の言葉で、声で伝えることに意義があると私は思います。

自分の言葉で一人でも多くの人に自分の想い、自分が見てきた人々の想いが世界へ届くことを信じ、この平和宣言にしました。

## 1 学習テーマ 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

私は戦争をなくすには「知る」ことが大切だと考えた。

何を知るのかというと、何人が被害を受けたのか、外国とどのような関係があったのかなどの実事のことである。しかしこのようなことは基本であり、自分で調べたら出てくることだ。私はこれ以上に一番大切で忘れてはいけないものがあると思う。それは「被爆者の想い」だ。事業の中で平和記念公園のガイドをしてもらった方が「広島では14万人も亡くなったと聞いて驚くと思うけれど、その中の1人はとても辛い思いをしている。」とおっしゃっていた。どんな思いをしたのかは分からないが、被爆者の話を聞いて周りの人に伝えることはできる。それが私の役目であり、世界の平和を実現できる力になると思う。

現在、被爆者の方が年々減ってきている。もう少しすると日本の被爆者はいなくなってしまう。だからこそ被爆者の想いは大切になると思う。戦争をなくすには1人の被爆者の想いを知ることが必要だと考える。



ガイドさんの話を聞く様子

## 2 感じたこと、学んだこと 平和の実現

私がこの事業に参加した理由は、なぜ人は戦争をするのか知りたかったからだ。それは幸せな暮らしをしたいからだ。

戦争に勝つと多額の賠償金や広い土地がもらえる。そうすると国民も充実した生活をする事ができる。けれど戦争をすることで幸せを壊されてしまう人がいる。私は戦争に勝つという方法で幸せになることは間違っていると思う。ではどうすれば幸せになるのか。それはお互いの良いところを見つけることだと考える。相手を褒め、自分も褒められることでお互いが嬉しい思いをする。また国同士では、他国の世界遺産やきれいな建造物を実際に見に行ったり、自国の良い場所に招待したりする。

お互いを褒めるということは身近にできることである。平和にしたいのなら自分の行動を変える必要がある。そうすることで世界の平和を実現できる大きな力になると思う。

私の  
平和宣言 一人千当

自分ができることは小さいと思ひこむと何も変わりません。けれど自分が行動するだけで世界は大きく変わると思ひます。この四字熟語には非常に力や勇気がある、一人の力は千人の力に匹敵するといふ意味があります。

これから私たち若い世代が社会を支えていくことになりまふ。だから自分は何ができるのかしっかり考えながら生きていきたいです。



## 1 学習テーマ 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

私たちは「戦争がなくなるには」というテーマをもとに学習をした。

- 1) 私は戦争がなくなるには、「国境をなくす」と「自国から広める」ということだと考えた。二つの結論には違いがあり、前者は自分が今すぐできることではない少し抽象的な考え方で、後者は自らすぐに行動できる具体的な考え方だということである。
- 2) 「国境をなくす」ということの考え方はヒロシマ青少年平和の集いに参加した際に行ったディスカッションで「戦争がなくなるにはどうしたらいいですか」ということを広島県の中・高生ピースクラブの数名にお聞きし、返ってきた答えを参考にしたものだ。具体的な国境をなくす理由は、国があるからこそ国と国との戦争が起きることや、国と国との信頼が浅いからこそ軍隊が置かれ、また戦争が起きてしまうからである。
- 3) 「自国から広める」というのは日本で戦争が起き、どんなことでおき、何があったのかをしっかりと、まだ知らない日本の方々に広めるという具体的なことだ。なぜ世界ではなく、日本からなのかというと、広島市の平和記念公園を案内してくれた広島の呉市出身ガイドさんが昔、他県から来た友人に、原爆のことについて聞かれたが、うまく答えることができなかつたため、一から原爆のことや平和記念公園、平和記念資料館などについて調べたとお話し、日本人として原爆や広島のことなどを人に聞かれたときに伝えられるようになってほしいという願いから、広島のことを我が国から広めていくべきだと思った。

## 2 感じたこと、学んだこと 現地に行って

私はこの平和学習で戦争の悲惨さだけでなく、戦争を経験した方が当時どのように思ったかなどを学ぶことができました。私の曾祖父は二人とも戦争を経験しており、一人はキノコ雲を見ており当時、訓練兵のような立場にいました。もう一人はインドネシアのタラカン島で歩兵として戦っており目を撃たれ、片目を失いました。そのため、私の曾祖父たちは当時どのような状況だったのかを考えたり、思ったりして本当に恐怖を感じました。

さらに呉市の呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)では神風特攻隊の方が残した言葉は本当に思っていることを話せたのかということや、戦艦大和のすごさを知り、とても良い学びができたと思いました。



呉の港



## 私の平和宣言 信頼を大切に

「戦争」は国と国との信頼が薄いからこそあるといっても過言ではない軍隊を中心に起こります。さらに、国と国とが独立しあっているからこそ、戦争が起きます。そして、私たち自身も信頼関係を築くことで揉め事などが減るのではないかと思います。そのため、国同士が信頼しあい接し方を変えていけば戦争がなくなり「平和な生活」になると思ったからです。

## 1 学習テーマ 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

「戦争をなくすために」この言葉はとても単純だと思います。ですが、単純な分、平和に向かっていく一番の近道であり、世界各地で戦争が絶えない今、最も求められているものだと思います。このテーマにしました。

何人かの被爆者からお話を聞いていく中で毎回「もうこのようなことは繰り返してほしくない」「戦争はしてほしくない」という言葉をたくさん耳にしました。このテーマを見た人がもっと広島や戦争の事について興味を持ってほしいです。



昔のまま残された本川小学校

## 2 感じたこと、学んだこと 私たちが伝えるべきものとは

私はこの学習を通して、戦争の恐ろしさや愚かさ、戦争で亡くなってしまった人々の思いなどインターネットや本ではわからないたくさんのことを学び、感じました。

被爆者の方から聞いた原爆の話や当時の戦争に関する教育の話は、知らないこと、言葉がたくさん出てきました。特に印象に残ったのは「当時の平和は戦争に勝つことだった」ということです。今の時代、「当たり前に感謝」「ご飯を食われていることが何よりの平和」などを耳にします。でも、戦争中の当時では身内の命よりも、皆でご飯を食べることよりも何よりの平和が「戦争に勝つこと」であると知って大変ショックを受けました。平和がなんだと言ってもなお戦争をしているこの時代、過去について知り、学び、伝えるべきだと思います。

私のように広島で起きたことや戦争の悲惨さについて知っているつもりで知らないことがたくさんある人に向けて、これから私が何を伝えるべきか、何をもっと深く知るべきなのか学ぶことができました。

## 私の平和宣言

## 自分たちの地球を知ろう、伝えよう。

「知は力なり」このフランス・ペーコンが言った言葉には「ものごとを深く知ることは大きな力になる」という意味を持っています。私は今まで戦争のことや今の地球で起きていることはある程度理解できていたと思っていました。ですが、広島という戦争を象徴する現地に行って、知らないこと・ものがまだまだたくさんあることを知りました。今は学習を通じたことでこうして家族や友達に伝えることができます。

これからは自分を含め知った気にならずにもっと知ろう。そして伝えようという考えをたくさんの人に持ってほしいと思います。



## 1 学習テーマ 戦争をなくすために～ヒロシマから世界へ想いを～

戦争をなくすためには「対話」が必要だと多くの人言います。しかし、多くの場合、戦争を始める前に「対話」がされてきたにも関わらず、双方の溝が埋まらないため「武力」での解決を目指して、戦争に突入してきたのではないのでしょうか。そのため、「対話」での解決は困難なのではないかと感じていました。

しかし、今回の広島平和学習を通じて、戦争がもたらした悲劇を目の当たりにした僕は、「武力」での解決は罪のないたくさんの方の命を奪い、国民を不幸にするだけだということ深く理解しました。今回お話を伺った広島の高校生は「対話」の必要性を訴えていました。それは、被爆地広島で語り継がれてきた「戦争の悲劇」を真に理解している人々が導き出した唯一の答えなのではないかと感じました。

## 2 感じたこと、学んだこと 国境のない世界

空襲警報のサイレン、爆弾の炸裂音、人々の叫び声や泣き声、第二次世界大戦の時に日本人が毎日のように聞いていたであろうこの音を、今この瞬間もウクライナやガザ地区の住人が聞いているのだと思うと心が痛くなります。

一方、同じ「音」でも、平和記念公園の「平和の鐘」を鳴らした時に響いてきた音は、僕の心を穏やかにし、自然と祈りを捧げたい気持ちにさせてくれました。

音は単なる空気の振動なのに、なぜ片方の音は心に痛みをもたらし、もう片方の音は心に平静をもたらしてくれるのでしょうか。

戦争を起こしてしまう人に心が穏やかな人はいません。心が穏やかでないから武力での解決に頼るのだと思います。

戦争の時に聞こえる不幸な音と、平和の鐘の音にどのような違いがあるのかは分かりませんが、平和の鐘を突いた時に響き渡った音は、間違いなく心を穏やかにする効果があると感じました。

「平和の鐘」には世界地図が彫られており、そこに国境は描かれていませんでした。国籍や人種、宗教、性別、年齢に関係なく、一人でも多くの方が自らの足で平和記念公園の地を訪れ、自らの手で「平和の鐘」を鳴らし、その音が平和の波動となって国境を超えて全世界の人の心に鳴り響いて欲しいと強く感じました。



国境のない世界地図が描かれた「平和の鐘」

私の  
平和宣言 他人の幸せを喜ぶ

争いは、領土、資源、宗教など、自分が欲しいものを手に入れたいと思うことから始まるような気がします。そのような自分の利益のみを追求するような姿勢ではなく、他人の幸せを優先し、他人の幸せを喜ぶことで、争いが減少し、やがては平和へつながると信じています。



思い出したくないことを思い出して、  
私たちに伝えて下さっている  
被爆者の方々の言葉を無駄にはできない



## 学習テーマ

## 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

私たちがやらなくてはいけないことは

平和への意識を高め、戦争や紛争を防ぐために  
努力をし続けることだと思います。

意味のある犠牲・戦争は存在しません。

過去の過ちを繰り返さず、より平和な未来を築くために  
一人一人が行動し、願いを繋げていかなければなりません。



## 1 学習テーマ 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

私たちの班ではどんどんと減っていってしまう被爆者に聞ける少ない機会を生かして、私たちから後世に伝えていこうという意味を込めてこのテーマにしました。

私が被爆者の話で一番心に刺さったものは、8月6日は静かにしてほしいということです。私にとって今まで8月6日はただの夏休みでしたが、派遣事業に行った後では考えが大きく変化したのが自分でもわかりました。また、そのように実際に会って話を聞くほうがより現実味を帯びることができると実感しました。

## 2 感じたこと、学んだこと 「自ら進んで知るべき」「当たり前を精一杯過ごす」

私は広島に行って、様々なことを知ることができました。そこで、思ったのは学校の授業ではあまり説明されていないような初めて知ることや教科書でみて大雑把にどんなものか知ただけだったと思いますが、平和記念資料館では実物を見て、触ることができて教科書で見ただけとは違い、どのような大きさだったのか、などがより鮮明にわかることができました。

また、私が今できることはと聞かれてパツと思いつくことができないのはまだ、考えが曖昧だからだと思います。その気持ちを放置するのではなく、自分で調べたり聞いたりして伝えていきたいです。

他にも、私は自分が知れる範囲、行ける範囲でも戦争・原爆のことを知ることによって回りに伝えることができ、それが繰り返されることで人々が繋がりが確実に戦争を反対する意見が増えると思います。私は今回杉並区内の代表1人として、広島に行ったことを思い出として終わらせるのではなく、友達に少しでも戦争のことに興味を持ってもらいたい、伝えていってほしいと思いました。そうして、人々が繋がるきっかけを作ろうと思ひ、行動する人が一人でも増えることを私は願っています。



平和記念資料館に展示してある被爆したガラス瓶

私の  
平和宣言 凡事徹底

凡事徹底の意味はごく平凡なことを徹底してやり抜くという意味です。有名な野球選手であるイチローも「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ一つの道。」という名言を残していて、まさに凡事徹底だと思いました。

私が平和宣言でこの四字熟語を選んだ理由は、当たり前を大切にすることがもっと増えてほしいと思ったからです。派遣事業を通して、私は当たり前を大切にすることでより一日一日が輝くと思いました。

## 1 学習テーマ 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

この事業に参加する前も、戦争なんかしてはいけないということはもちろん分かっていました。ですが、戦争を私たちが直接止めることもできませんし、私たちの力だけで平和を導くこともできません。今までは、願うことしかできませんでした。

「願うだけでは平和はおとずれません。平和をつくっていくのは私たちです。」これは、平和記念式典でこども代表の二人がおっしゃっていた言葉です。この言葉は、私の心に深く残りました。今までは自分の力では叶わないと思っていた「平和」。ですが、この言葉を聞いて、自分にも平和のためにできることがあるんだ、と気づかされました。



平和記念式典が行われた会場

## 2 感じたこと、学んだこと 想像したくないほど残酷だった79年前の広島

平和記念資料館で当時の状況を表す写真や絵、遺品などを見てきました。それは、言葉で言い表せないほど悲惨で、残酷で、本当に79年前の広島で起きたこととは思えないものでした。

特に心に残った、「魂の叫び」。助けたくても助けられなかった悲しみの声、「行ってくるね」が最後の言葉になってしまった家族…。どの声も、原爆の悲惨さを物語るものでした。もしもこのことが私の身にも起きてしまったらと思うと、恐ろしくて仕方がありませんでした。

そんな展示物を見て私は「あたりまえがこんなにも幸せ」、だということを学びました。今、私たちは戦争の被害も受けず、不自由なく生活することができています。でも、79年前の8月6日に広島はそんな「あたりまえ」が一瞬にして奪われてしまいました。

ヒロシマ青少年平和の集いの際、被爆者の方が被爆体験を話されている時、真剣だけれど苦しそうな表情をしていました。お話を聴いていると、本当にあったとは思いたくないような、でも本当にあったんだ、と複雑な気持ちになったのを覚えています。

その被爆者の方がおっしゃっていた言葉。「私の夫が、あの日のことを話してくれることは滅多にありません。」思い出したくないことを思い出して私たちに伝えて下さっている被爆者の方々の言葉を無駄にできないなと思いました。

無駄にしないためには、まずは周りの友達や家族にその事実を伝えること。そして、その事実をしっかりと受け止めることが大切だと思います。世界が平和になるために、自分はどんなことができるのか、考えながら生活をしていきたいと思いました。

私の  
平和宣言 あたりまえが幸せ

戦争や原爆によって、食糧難など不自由な生活を送っていた時代。それに比べて現代は、食料はたくさんある、自由な生活を送っていると私は思います。普段生活していて辛いことや嬉しいこと、様々なことがあるけれど、そんな風に行うことができることこそが「幸せ」だということにこの事業を通して気づくことができました。これからはもっと「あたりまえ」を大切にしていきたいです。



## 1 学習テーマ 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

今、日本で生きる私は幸せな毎日を過ごしている。ニュースで聞く、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルによるガザ攻撃などの戦闘の影響はほとんどなく、ただ遠くから見て、かわいそうに、早く終わればいいと思うだけ。しかし、もしかしたら、第二次世界大戦前の日本の子供たちも同じように戦争を遠くの出来事とっていたのかもしれない。その後、戦争が始まって生活は一変した。原爆投下されていない場所も空襲などの攻撃による大きな被害を受けた。

呉市は元々海軍基地ができたことでとても栄えた町だった。基地ができるとともに人口が増え、娯楽施設が立ち並び、活気に満ちた。戦争特需を享受した人々は、戦争を悪いものではないと思っていたのかもしれない。しかし、昭和20年になると複数回にわたり呉軍港が攻撃され、7月に入ると市街地の無差別攻撃も始まった。そして、1千人以上もの死者がでた。戦争が始まった先には必ず悲劇があるのだと知ったのはその時だ。



現在の呉市の港

## 2 感じたこと、学んだこと 平和は夢じゃない

今もまた、歴史の過ちは繰り返されている。核兵器はまだ使われていないが、それ以外の兵器も十分な重大な悲劇を起こしている。平和は取り戻すには戦争を無くさねばならない。

今回の派遣事業に参加する機会を得たが、広島過去の悲劇について学ぶだけでなく、何か変化を起こさなければならない。自分の考えを言って、他の人々の意見を聞いて、新たな発見をし、世界に働きかけていかねばならない。

私の班員のなかには、東京で8月6日と9日に黙とうをしないことをとても不思議で残念に思っている人がいた。確かになぜ、自分の国で起きたことを関係のないことのようにしてしまうのだろう。戦争は常に対岸の火事だから、戦争は終わらない。他国間の紛争も、私たちが生きる同じ地球の上の出来事だ。けて関係のないものではない。

調べてみると、爆心都市広島はたくさんの兵士や軍事物資を送り出し、他の国や人々に危害を加えていた加害者でもあった。私は、そんな広島を平和だけのシンボルでなく、被害と加害の二重性をもった、より深い悲劇の象徴として掲げたい。広島は戦艦工場のある呉市に隣接していたことから原爆投下の場所として選ばれた。もしも広島が戦闘に加担していなかったら攻撃されなかっただろう。自国を守るには、まず兵器を造らない、送り出さないことだ。

私の  
平和宣言

## 一人の幸せより全員の平和を

集団生活において、一人の幸せの為に、他の意見が異なる人が不幸になっていては、集団生活は成功しません。全員がだいたい同じ方向を向いて、誰もが小さな満足を得られる道を探らねばなりません。そこに必要なのは核兵器や戦闘機ではありません。話し合いです。全員が納得するまで、とことん議論を尽くす習慣を、世界中の若者が身に着けたら世界から戦争をなくせると思います。

## 1 学習テーマ 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

僕たちの班では、今の被爆者の平均年齢は85歳を超え、もうすぐ伝える人がいなくなってしまう現状から、被爆者の話を引き継いで伝えるということでの学習テーマにしました。僕はこの3日間で、見たことや聞いたことなどをまずは身の周りの人から、友達などを通じて広めていき、また、後世の人に引き継いでというのを繰り返して、今後二度と人の力でたくさんの人を失わないようにしていきたいと思います。

## 2 感じたこと、学んだこと 「事実を知る」「これからの取り組み」

僕は広島平和学習に派遣されて特に印象に残ったのは2つあり、「平和記念資料館」と「とうろう流し」です。1つ目の平和記念資料館では、当時の状況や原子爆弾の概要、当時の人の悲惨な写真、被爆した人が描いた絵など展示されていました。僕はこの資料館はすごくいいと思います。なぜなら、若者に引き継ぎなければならぬくらい年月が経っているので、当時のことを一番知ることができるのは被爆者の体験談や絵、写真しかないからです。

しかし、当時の事実を知ることができたとしても被爆者の辛さや痛みはわかることができません。被爆者に自分の思いや気持ち、願いや誓いを伝えることができるのがとうろう流しです。とうろう流しは昭和22年頃に、被爆者の遺族や市民が追善と供養のため手作り灯ろうを川に流したのが始まりで、長い歴史があり、「慰



被爆者が描いた当時の状況

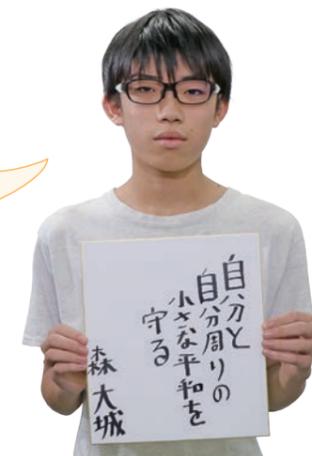
霊」と「ピースメッセージ」の意味を持ちます。四角形の灯ろう用紙に亡くなった人の名前と流した人の名前、または平和への思いを書き、中央地区、福島地区、己斐地区に流します。この平和への思いや慰霊は、種火の「原爆の残り火」とともに流れ下流で回収されます。思いがこもっている綺麗に光った灯ろうが流れるのは、被爆者に思いが伝えられる良い行事だと思いました。

私の  
平和宣言

## 自分と自分周りの小さな平和を守る

誰もが世界規模・国家規模のことをしなくて良いと僕は思います。なぜなら、自分と自分の周りの小さな平和を守れば、自然と区、都、国、世界とだんだん平和が広がっていくはずだからです。まずは自分の行動を見直し、周りの人がミスをしたらカバーすれば周りが平和であふれると思います。

僕は自分の発言や行動に気をつけ、まずは自分の身近なところから平和な笑顔でいっぱいしていきたいです。



## 1 学習テーマ 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

79年前の8月6日、広島に一発の原子爆弾が投下され、想像するのが恐ろしいほど悲惨なことが起きてしまいました。被爆者の方の体験談や話を聞いてみると、たった一発の原子爆弾により多くの人々の人生や日常が踏みじられ、爆心地から半径2キロメートル以内の地域はことごとく焼失し、火の海になってしまったそうです。逃げる道には数多くの死体があり、衣服は裂け、皮膚が垂れ下がり、ゾンビのように手を前に出し逃げる人もいたと言います。

また、「水をくれ」と泣き叫びながら亡くなった人、爆風で倒壊した家に挟まれ、「助けて」と叫びながら亡くなった人、放射線の後障害によりケロイドや白血病、がんなどの病気に後からなり亡くなった人も少なくありません。後障害においては、「今なってもおかしくない」と今でも被爆者を苦しめています。

そして今、このようなことを伝えてくれている被爆者の方々が年々減るにつれて、広島で起きたことを知っている人も減っています。班の学習テーマにあるように起きたことを伝えなければ忘れられ、また同じ過ちが繰り返されてしまいます。そこで僕は他国の人々と積極的に交流を持ち、広島で起きた事実と命の重さを伝えていきたいと思っています。

## 2 感じたこと、学んだこと 現地に行ったからこそ、感じられたこと

派遣後、最初に平和記念資料館に行きました。資料を見てみるとインターネットなどで見ていたものとは違いました。被爆した服や三輪車、弁当箱など当時のものがそのまま残っていて、焦げていたり破れていたり、元の形が分からない程度に変形していて、資料そのものが原爆の悲惨さや脅威を表していました。また、当時の様子を描いたありのままの絵や、写真もあり、とても恐ろしくなりました。被爆した瓶と普通の瓶を触り比べて、被爆した瓶は変形していてざらざらしていたなどと違いを感じることができました。

このように、現地に行ってみないと感じられないことが他にもたくさんありました。やはり、現地に行き、感じる事が平和への第一歩だと思いました。



平和記念式典中の平和記念資料館

私の  
平和宣言

## 平和への貢献の仕方は人それぞれ

「願うだけでは、平和はおとずれません」平和記念式典の平和への誓いでこども代表の方が言っていました。僕はこの通りだと思います。平和は一人ひとりが願うだけではなく、みんなで創っていくものだと思います。そのためには行動するしかありません。平和への貢献の仕方は人それぞれです。そこで僕は、核や自国に起きたことについて学び、それを周りの人に伝えていきます。平和のためにあなたはどんな行動を起こしますか？僕はこの質問をもって平和宣言とします。

## 1 学習テーマ 「私たちは伝える」～過ちを繰り返させないために～

私たちのタイトルである「私たちは伝える」は、実際に広島に行き「伝えなければいけない」と深く考えたことから、つけました。今の当たり前だと思っている生活がどれだけ尊いものなのか、今の私たちにできることはなんなのか、私は改めて考え直さなければいけないと思います。そして、お互いの意見を尊重し合うこと、「違い」を「良さ」と捉えること、平和ってなんだろう、幸せってなんだろうと1人1人が考えること、これは私たちが今できる平和への一歩です。これを多くの人に伝えたいと私は思いました。

## 2 感じたこと、学んだこと 知り、学び、伝えることの大切さ

私がこの平和学習中学生派遣事業を通して学んだことは広島市や呉市に実際に行き、深く考えることができた「平和」の尊さです。実際に行ってみただけで疑問もあり、行ったからできた経験や感じたことがあります。原爆ドーム、1日目の平和記念資料館、3日目のヒロシマ青少年平和の集いが特に印象的でした。

原爆ドームでは、教科書や本などの写真で見るとは別物のようで、原爆の恐ろしさや悲惨な出来事を実感できるものでした。平和記念資料館では当時の写真や実物、資料などがあり夢に出てくるほど衝撃的なものでした。戦争や原爆の恐ろしさを知り、資料から平和の大切さを学ぶことができました。ヒロシマ青少年平和の集いでは、被爆者のお話を聴きグループディスカッションをしました。被爆者の方のお話を聴いて、本当にあった事実なのか？と、受け入れられないと思うとともに、このことを周りの大切な人に伝えなければいけないと思いました。グループディスカッションでは、いろんな地域の中学生と話し、その地域ではどんな戦争があったのか。それをどう伝えていくか一緒に考え、理解を深めることができました。

私は3日間を通して「知る」「学ぶ」「伝える」ことの大切さが分かりました。生きている今がどれだけ幸せなことなのか感じつつ、平和とはなんなのか家族や友達、大切な人たちと一緒に考え、伝えていきたいです。



グループディスカッションの様子

私の  
平和宣言

## 一緒に考えよう平和への第一歩

ボランティアガイドさんや呉市のガイドさん、被爆者の方のお話で共通していたことは「いろんな人と戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えてほしい。そして、過ちを繰り返さないでほしい。」ということでした。皆で努力し協力し合って戦争のことを学び、平和とはなんなのかを考え、相手を思いやり、1日1日を大切に過ごしていきたいです。





## 「微力だけど、無力じゃない」 この言葉があるように一人ひとりの想いが 平和への一歩になる



### 学習テーマ

#### 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

私たちは、平和とは争いをなくすことで生まれると考えました。

これを最終目標とし、平和に必要なことは何かを考え

「力ではなく、言葉の発言あって成る平和」

「平和とは、笑顔でいられる世界」

のことだと考えがまとまりました。



### 1 学習テーマ 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

私は、ヒロシマ青少年平和の集いに参加し被爆者の八幡照子さんの話を聞き、本当に現実で起こったことなのかの実感がわきませんでした。八幡照子さんに聞いた話は、とても残酷で聞いて感じただけでもとても胸が締め付けられる思いになりました。八幡照子さんは8歳の時に戦争を経験していて、それを今では言葉にし、たくさんの日本人や海外の方たちに伝えています。

広島に原爆が落とされたことで、多くの命が奪われ、たくさんの人が急性障害、原爆小頭症、後遺症などで何十万人もの人々が亡くなり、そして今でもその症状で苦しんでいる人がいるということを伝えるのと同時に、核兵器の危険さ、核兵器を持っている理由、平和の大切さをたくさんの人に理解してもらい、現在でもウクライナとロシア、イスラエルや中東での紛争などが起きていますが、核兵器がなくなり戦争が起こらない世界に変わっていただければ良いと考えました。

### 2 感じたこと、学んだこと 「戦争の悲惨さ」と「平和の重要さ」

私は、広島平和学習での3日間で「戦争の悲惨さ」と「平和の重要さ」をあらためて実感しました。戦争を体験した方からお話を伺い戦争から学べる一つの重要なところに気が付きました。それは平和の重要さです。戦争をもたらす苦しみ、悲しみを経験することで、平和を守ることの重要性を私は強く感じました。戦争を経験した人々から、当たり前前の生活が決して保障されているものではないと学び、この教訓を通して、感謝の気持ちを持ち、日々を大切に生きることの重要性をあらためて実感しました。

戦争の悲惨さ、平和の重要さを実感している人から直接話を聞いたからこそ、きちんと責任をもって家族や友達、戦争の恐ろしさを知らない人に伝えなければならないと実感しました。そして戦争体験者が伝える「当たり前が当たり前ではない」という教訓は、私たちが日々の生活を見つめなおし、感謝と平和の大切さを心に刻むための重要なメッセージだと感じました。



平和を祈った灯籠

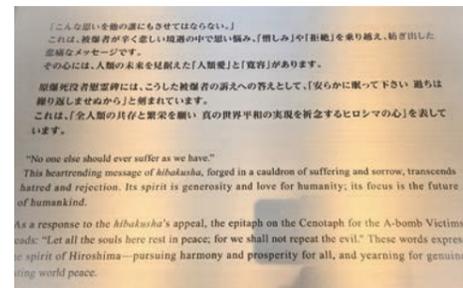
#### 私の平和宣言 『平和のバトン』を繋ぐ

今回学んできた戦争の恐ろしさと命の尊さを家族や友達など身近な人へ伝えることが、平和な生活、当たり前前の日々を守るために私たちができることの一つとし、私たちが今できることを少しずつ積み重ねていけば、いつか戦争、核兵器のない世界を実現できるかもしれません。核兵器の恐ろしさを知り、それを次の世代に「平和のバトン」をつないでいくことを宣言します。



## 1 学習テーマ 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

広島に実際に行って一番感じたのは、やはり戦争や争いは二度としてはいけないということです。被爆した方々のお話や経験談を聞くと原爆が投下されたことによって、多くの人々の人生や暮らしが失われたことがわかります。爆心地から2km以内はすべて建物が全焼するような、人々がいたところに影ができるような強さの原爆でした。そして、被害はそれだけに限らず放射線、黒い雨などももたらしました。そのような悲惨なことを辛いながらも話続けてくださる語り部の方々のためにも、一人一人が平和の大切さを認識しながら過ごしていくことが一番大切だと思います。



慰霊碑に込められた思い

## 2 感じたこと、学んだこと 戦争をなくすために

この派遣事業の中で私は同じ世界平和を強く願っている友達同士でどのようにしたら世界平和を作れるかというのをたくさん話し合いました。そのうちの一つが「世界平和会議」というのを開くことです。内容としては、広島の資料館やアウシュビッツ強制収容所など戦争や争いを学ぶことのできる場に行きます。それにより被害の惨状を自分の体験のようにとらえることができ、平和への考えを深めてもらうことが目的です。私自身学校で戦争について学び、戦争終戦から100年もたっていないことに驚いたのと同時に、それが歴史ということではしか認識できず、戦争などは自分の生活からほど遠いことのように感じていました。

しかし、今回事業に参加して、戦争の恐ろしさ、核の恐ろしさを身にしみて感じ、平和の大切さについて改めて考えるきっかけとなりました。同じように実際に資料館などを訪れてもらい、戦争を自分のことのようにとらえてもらうというのが目的です。



## 私の平和宣言 未来へ全ての人々へ 私達が笑顔を繋ぐ

私たちの未来を作るのは私たちの世代となるので自分たち自身で平和をつないでいく必要がある。そのような思いを込めて平和宣言としました。誰かがやってくれるからで済ますのではなく、自分たちの行動で未来が変わっていくというのを認識して、小さいことでも一人一人が行動していくことが大切だと思います。

そして、その些細な行動一つ一つが世界の平和へとつながるということを多くの人に伝えていきたいです。

## 1 学習テーマ 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

僕たちの班のサブタイトルである「対話で創る」というのは、「対話」つまり他の人たちと一緒に様々な意見を聞き相対することという意味で、「他人の意見を尊重してほしい」という願いが込められています。このテーマがよく表れたと思うのが、ヒロシマ青少年平和の集いでした。集いでは広島市内や各地域の学校から同世代が集まりお互いの身近な地域の歴史について発表しました。僕の班ではそれぞれの地域の歴史を比較し、平和の重要性について考えを深め合いました。最終的に国際的なトラブルを解決するためには、その国ではどんな行動が必要かというテーマに沿って発表しました。

## 2 感じたこと、学んだこと 他人事ではない

僕はこの3日間を通して主に2つのことを学び考えました。

1つ目は「伝える」ということです。ヒロシマ青少年平和の集いに参加してくださった八幡照子さんは「世界に警鐘を鳴らし続けることが私にできることです。」とおっしゃっていました。被爆者の平均年齢は85歳と高齢化が進んでいて、次世代の若者は被爆者の声を聴くことが難しくなっています。そのため僕たちが被爆者の声を継承し、次世代の人々に平和への理解を浸透させ、平和への道を作っていくべきだと考えます。

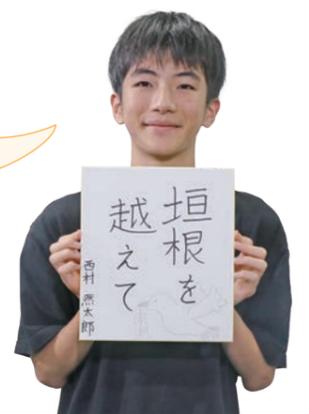


旧本川小学校にある鶴の作品

2つ目は「世界情勢」についてです。今世界ではパレスチナ問題、ウクライナ侵攻など様々な争いが起きています。それらの争いの数は現在56にのぼります。ウクライナ侵攻では欧米諸国が兵器をウクライナに供給するなどをして戦争を後押ししています。実際に、2022年から始まったウクライナ侵攻は現時点で約10万人の死者が出ていると推測されています。また、核兵器による威嚇も絶えません。共通の「幸せ」が消えつつあります。今こそ核廃絶の声を上げる時だと僕は思います。「微力だけど、無力じゃない」という言葉があるように一人一人の思いが平和への一歩となると思います。興味を持ったらすぐ調べてください。平和とは何だろうか、自分にできる身近な一歩とは何だろうか？他人事ではなく、自分事で世界に目を向けてみてはどうでしょうか。

## 私の平和宣言 垣根を越えて

79年前に起きたあの悲惨な光景を二度と繰り返さないために、僕は垣根を越えた平和への共通意識が必要だと思います。個々の主張のずれ違いはあるかもしれませんが、争いによって関係のない人を巻き込むというのは絶対に許せません。たとえ自分、国に利益があろうと、家族、大切な人、親友…を失う人々が大勢います。79年前に大変な思いをした被爆者のためにも対話での解決を一刻でも早く望みます。



## 1 学習テーマ 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

今回、この平和学習で一番考え、グループで話し合っただけで考えをより深めていったのは「平和」についてです。平和のためには核兵器や争いをなくす事や、意見を尊重し合いより良い考えを出す事など、大切なことが多くあります。ですが、様々な学習を進めていく中で“平和に大切なのは対話だ”と考えました。平和は武器などの力ではなく、対話で創っていくのだと思います。

また、平和とは楽しいこと、嬉しいこと、幸せなこと、それらで笑顔になれることだと考えました。戦争中は笑顔が全然ないけれど、争いがなく平和であれば笑顔が溢れていると思います。この学習を通して私は、平和とは笑顔があり対話で創っていくものだと思います。

## 2 感じたこと、学んだこと 被爆者の方々の想い

この平和学習で、事前学習・平和記念資料館・ヒロシマ青少年平和の集いなどで、被爆された方の想いを聞く機会がありました。

まず、事前学習では、被爆当時11歳の山田玲子さんのお話を伺いました。山田さんのお話で一番印象に残っているのは、「外国(核を使って攻撃してくる国)の人々をではなく、核兵器を恨んでいる」という言葉です。アメリカは広島や長崎に原爆を落としました。ですがアメリカ人を恨むのは違うと思います。核兵器である原爆がいけないのです。日本にアメリカの人々が来てくれたとき、恨むのではなく、むしろ歓迎して、核兵器の悲惨さを知ってもらい世界にも広めていくことが重要だと思いました。

次に平和記念資料館では、音声ガイドで鎌谷伸一ちゃん(当時3歳11ヶ月)の父、信男さんが当時を語っていました。伸一ちゃんが死んでしまったときの話、その後30年ぐらいは言わないことにして、40年ぶりに掘り出したときの話など、涙をぬぐいながら話す様子が話す声から伝わってきて、すごく心が痛くなりました。目の前で大切な大切な自分の子どもが死んでいってしまうのは、本当につらく苦しいことだと思いました。

そして、ヒロシマ青少年平和の集いでは、八幡照子さんのお話を伺いました。八幡さんのお話で、八幡さんのお母さんの「みんなで死のう。みんな一緒よ!!」という言葉がすごく印象深かったです。戦争は死にたくなくなるほどのものだったのだと、泣きそうになりました。また、お話の最後の方に「命があればまた歩み出すことができる」とおっしゃっており、その言葉が心に刺さりました。悲しいこと、苦しいこと、つらいことなど、何があっても乗り越えていける・乗り越えていかななくてはいけないのだと実感しました。

被爆者の方々は、目の前で大勢の人たちが死んでいく様子を見ています。知っています。それを言葉にするのは本当に苦しい事だと思いますが、私たちにお話くださっています。被爆者の方々の想いを「忘れてはいけない」「発信していかなくてはいけない」と強く感じました。

## 私の平和宣言 想いを世界へ

この平和学習で、被爆者の方々のお話を初めて聞きました。被爆された方ひとりひとり、様々な想いがありました。それを聞いた私は、まだ知らない身の周りの人たちに教えてあげる必要があります。そして、核兵器を保有している国や世界に知らせる必要があります。どんなに小さなことでも、自分にできることを探し、見つけて、少しずつやっていこうと思います。



平和記念資料館 奥の写真の右  
鎌谷伸一ちゃん、(伸一ちゃんが遊んでいた)三輪車、(伸一ちゃんが身につけていた)鉄かぶと



## 1 学習テーマ 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

私たちの班では、「自分たちにできること」という視点で考え、この学習テーマにしました。

いざ被爆地広島に行き平和記念式典に参列すると、様々な人のスピーチに「対話」というワードがでてきました。これは、相手の話を聞くこと・違いや良さを認め合うこと・同じ地球市民として手を取り合って協力することが平和に繋がると感じました。

しかし、自分たちには世界を動かせるほど大きなことはできません。まずは、相手が話しているときに感情的にならないことや、相手を認めることで笑顔が絶えない世界をつくることをこの3日間で考えました。

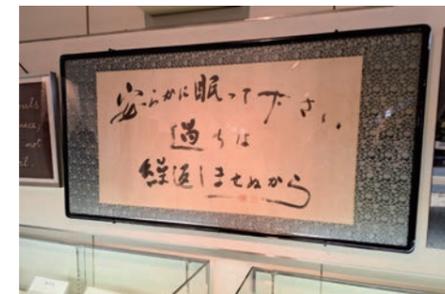
## 2 感じたこと、学んだこと 同じ過ちを繰り返さないために

私は、被爆3世です。祖父は0歳のときに爆心地から2.5Km圏内で被爆しました。物心がついたころから毎年8月6日の平和記念式典をテレビで見て、黙とうをし、原爆死没者慰霊碑に彫られている「安らかに眠って下さい 過ちは繰返させぬから」の言葉がずっと記憶に残っていました。

成長していくにつれて、その言葉の意味がだんだんと分かるようになってきました。今年、平和記念資料館を見学して、原爆の悲惨さや恐ろしさをテレビやネット・本などで見るよりも感じ、被爆時の小学生の衣服・全身やけどを負った人の写真・黒こげになったお弁当・後障害の白血病で亡くなった佐々木貞子さんの折り鶴など、多くの資料に衝撃を受けました。

本川小学校平和資料館の展示品の中にある2.5Kmで被爆した御幸橋で被爆後すぐに撮られた写真。そこには、服の焼けた人や子供を抱いている女性が映っていて、目をそむけたくなるほど重たかったです。

3日目のヒロシマ青少年平和の集いで被爆証言をしてくださった八幡照子さんは、「命を大切にしてください。人は何があってもまた歩き出せます。」とおっしゃっていました。私はこの言葉を一生忘れずにいたいと思います。



原爆死没者慰霊碑の碑文

## 私の平和宣言 ヒロシマに学び、伝える

79年前、ヒロシマで何が起きたか。なぜ核兵器を使用してはいけないのか。平和とは何か。この答えを見つけることができました。広島に行って、見て、聞いて、感じて、学ぶ。これが平和への一歩だと思います。

今この瞬間にも、核兵器は存在し、世界には脅威にさらされている人がたくさんいます。核をなくすために、過去に目を向ける必要があります。

8月6日の広島には、想像していた以上に海外の方が多く驚きました。私は、海外の人でも日本の被爆地に関心を持っているのだと思いました。

資料館の展示は『物言わぬ証言者』です。核の恐ろしさを知り、世界中の人が団結して核兵器のない世界、武力を使った争いがなくなった世界と一緒に見ましょう。



## 1 学習テーマ 『対話で創る』～笑顔あって成る平和～

1945年8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾が広島に投下され、人々の人生や生活、笑顔、そして未来を壊した。平和学習の中で、最初から問われてきた問い、「平和とは何か」を考えていく中で、班の中でも、一人ひとりが思う平和が違った。しかし、それぞれの意見に共通し、行きついた平和とは、「戦争や争いのない、笑顔のある世界」だった。テーマを軸にして、強く感じたことは、対話の大切さだ。私は広島に来て、いろいろな人に出会ったが、平和に必要なものはなにかを問い、求めている人の誰もが、対話が重要であると考えていた。

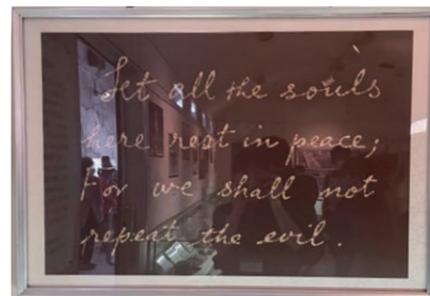
「相手を受容できないときに、争いが起こる。」被爆者の八幡さんがおっしゃっていた言葉だ。非難などの感情ではなく、事実をもとに話すこと、などの「対話」が重要であることを学んだ。対話で創る平和の中にある笑顔を守っていくことが、今を生きる私たちの使命であると感じた。

## 2 感じたこと、学んだこと 今を生きる責任

私は、今回の派遣事業を通して、戦争の悲惨さや過酷さ、そして私たちがどれだけ恵まれ、幸せな環境であるかを改めて感じた。今回の事業では、平和記念資料館の見学や平和記念式典の参列、被爆者の方のお話、日本のさまざまな場所から集まった同年代との意見交換など、初めて自分の身で体験し、得られるものが多くあった。

平和記念資料館や公園では、初めて被爆者の方の遺品や建物などを見た。事前学習などで、多くの写真を見たりして、戦争について学んできていたが、遺品や写真を見たときの衝撃は大きかった。息遣いが聞こえてきそうなほどの現実がそこにはあった。

また、被爆者の方のお話では、当時の環境や心情を聞くことができた。「命があればまた歩き出せる。」という言葉も、被爆者の方の切実な思いに今を生きる人の責任を感じた。さらに、14万人の方が被害を受けたなど、14万人という数でくられ、その膨大な数字に今までは驚いてきたが、その一人一人に生活があり、人生があったこと、その未来をたった一発の原子爆弾で奪ったというその事実の非人道性、核のない世界をつくることの重要性を強く感じた。さらに、慰霊碑にはこんな言葉が刻まれている。「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」今世界では、戦争や争い、核実験などにより、被害を受け、苦しんでいる人がいる。慰霊碑に刻まれた先人の決意や想いを無駄にしないためにも、今を生きる私たちのためにも、平和への決意をもって行動していきたい。



人々の願い



### 私の平和宣言 行動を起す

「願うだけでは、平和はおとずれない。」現地の小学生の言葉です。これは、何事にも共通する言葉であると思いました。行動しなければ何も起こりません。今生きていることに感謝しながら、知るための行動、学ぶための行動をしていきたいとします。

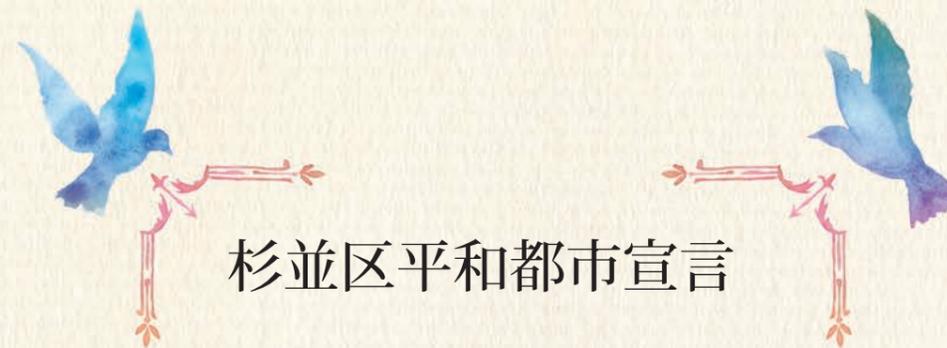


元安川を流れた派遣生のとうろう

2024.08.06



私の平和宣言

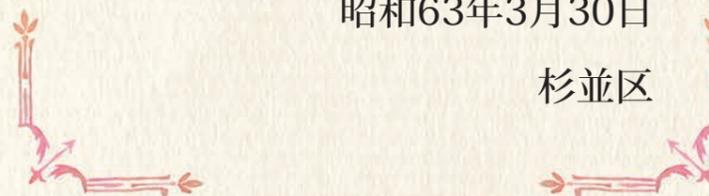


# 杉並区平和都市宣言

世界の恒久平和は、  
人類共通の願いである。  
いま、私たちの手にある  
平和ゆえの幸せを永遠に希求し、  
次の世代に伝えよう。  
ここに杉並区は、  
核兵器のなくなることを願い、  
平和都市を宣言する。

昭和63年3月30日

杉並区



広島平和学習中学生派遣事業は「杉並区次世代育成基金」を活用しています。  
同基金は、次代を担う子どもたちが、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための区独自の仕組みです。



令和6年度  
広島平和学習中学生派遣事業報告書  
令和6(2024)年12月発行  
編集・発行  
杉並区 区民生活部管理課 平和事業担当  
〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号  
電話(03)3312-2111(代表)  
印刷:ash design

登録印刷物番号  
06-0072



本書は杉並区のホームページでご覧になれます。



 杉並区